



ゲストハウスカ 第1回 前田有佳利

「シェア」を盛り込む 複合型の宿

和歌山県和歌山市にある、築約50年の5階建てビルを改装した複合施設。ここではゲストハウスを軸に、旅人や地域の人々と空間を共有しながら街を盛り上げる数々の事例の芽が育まれていた。

ゲストハウスを旅する編集者

- 宿の受付横で街の人たちが憩う、なんともシェアな空間RICO。
- 外壁は昔のまま、ビル旧名のネオンが残る。
- 屋上では、誰でも参加が可能な「早朝ヨガ」を定期的開催。



おかえり、ただいま。そんな言葉が交わされる、近年急増中の宿業態「ゲストハウス」をご存知だろうか。年齢も職業も国籍さえも異なる人たちが、日常のように非日常な空間を分かち合う旅の宿だ。日本では、9割以上が既存物件のリノベーションで、20〜30代のUターン移住者による開業も多く、空き家問題や地方創生の解決手段としても、近年関心が高まっている。インバウンド需要も相まって、ここ数年で軒数は倍増し、今では日本各地に約1000

軒存在するとも言われる。そんなゲストハウスを紹介していく連載の第1回は、私の地元である和歌山市に2015年(平成27)12月に誕生した「Guesthouse RICO(リコ)」を取り上げる。特徴的なのは、これでもか!というほど、他者と空間を共有する「シェア」の要素を盛り込んでいることだ。事務所兼共同住宅だった築50年ほどの5階建てのビルをリノベーションして、さまざまな事業構想の実施を進めている。

1階はレセプション兼バー&ラウンジ。コワーキングスペースとシェアキッチンも準備中で、現在はフリースペースを活かしてイベントを適宜開催している。2階はルームシェア。今はレンタルスペースとしての利用を検討中だ。3階は共同住居。4、5階がゲストハウスの宿泊者ルーム。屋上も地域の人々や旅人とシェアをして、早朝ヨガや、星空を眺める寝袋体験、夏はBBQ場としての貸し出し、ビアガーデンを開催する日もあるという。

なぜ、これほどまでに「シェア」なのか。実はこの場所、地域活性化を目指した地元の事業主3名が「株式会社ワカヤマヤモリ舎」という会社を設立し



D A T A

Guesthouse RICO

住所 ● 〒640-8111 和歌山県和歌山市
新通5丁目6番地
電話 ● 073-488-6989
料金 ● 相部屋2,963円〜、個室5,926円〜
(1泊素泊まり)

て運営している。街の遊休不動産の活用を考えた時、実体験からベストな提案ができるようにと、さまざまな手法をこのビルで実践することにした。他の誰かと空間を分かち合うことで新たな気付きが生まれ、自分の中にある豊かさの種に出逢えるようにという思いを込めて「Fill Your Seeds」というコンセプトを掲げ、「シェア」に基づく事例を積み上げている。

そんなRICOの宿泊者の顔ぶれは実に多彩だ。スタッフの橋麻里さんは「キックスクーターで日本一周に挑戦しているヨーロッパ人、プラネタリウムの移動上映会を各地で開催する日本人男性が家族で宿泊されたこともありました」と楽しそうに振り返る。特別な好立地ではないなか、口コミで広がり、初年度で2500名を迎えたと、いつから驚きた。

最近では、市内の物件の持ち主から空き家活用の相談や、さらには宿泊者から移住の相談を受けることまであるという。

マネージャーの宮原寒さんは「無理に勧めるのではなく、旅の延長線上として、移住希望者の気持ちに寄り添いたいと思っています。現在、計画中の別物件も、移住者の受け入れ場として活かしたい」と穏やかな表情に秘めた熱い思いを語る。

「一緒に街を盛り上げる仲間が増えたらいいですね」と宮原さん。まちづくりの種が芽を出し、森となる兆しを目の当たりにして、私は地元どうこう関わっていきたくらいかと、ふと自分の未来に思いを馳せた。

前田有佳利 (まえだゆかり)

国内150軒以上のゲストハウスをめぐる、ローカル編集者。noieという商号でフリーランスとして執筆・編集・企画などを担う。ゲストハウス紹介サイトFootPrints編集長。著書に「ゲストハウスガイド100」(ワニブックス)。1986年、和歌山市生まれ。京都・大阪・東京を経て10年越しのUターン。現在は、和歌山を拠点に日本各地へ。
<https://www.noie.jp/>